

染織工芸「名工」の技80点

駒ヶ根 宮田の細田さん作品展



「睡蓮染」で描いた作品「相聞」について説明する細田さん

駒ヶ根市の駒ヶ根シルクミュージアムで11日、宮田村の染織工芸家細田伊佐夫さん(87)の作品展が始まる。昨年黄綬褒章を受けた記念の展示で、作品約80点と道具で多様な手仕事を紹介する。

細田さんは、父親が開業した1946(昭和21)年から染織を始め、染料を混ぜながらばかす独自の「睡蓮染」など、さまざまな技法で作品を作ってきた。2011年には「現代の名工」に選ばれ

た。

幻想的な世界をチョウが舞う作品「相聞」は、睡蓮染で色を筋状に混ぜて表現した背景に実物の2匹のチョウの羽を貼った。細田さんは「睡蓮染は、狙ってできない自然のにじみ。納得いくまで何度もやる」という。

クヌギの煮汁や赤土、桑の葉、硫酸銅など色があせない染料も研究。色の違いが分かるよう、文字を白抜きにして背景をさまざまな色で染めた作品も展示した。

作品展では自作の型紙などの道具も並べた。細田さんは「先人の残した技術には人の暮らしが息づいている。消えゆく手仕事の良さを思い出してほしい」と話している。

16日まで。13日午後1時半からは細田さんの講演と実演がある。